

(その四)

工場又は事業場の名称	アズマプレコート株式会社 市川工場
------------	----------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
○A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

生産量減少ならびに生産構成が変わってきているため、使用量とVOC排出量についても減少。
省エネと反比例の関係がありバランスをとるのに試行錯誤しています。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	神東塗料株式会社 千葉事業所
------------	-------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
Ⓐ	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

VOC使用量に対する排出量の割合は変わっていないので、溶剤系塗料の生産量により、VOC排出量が影響を受ける。
水系塗料の生産比率を高めることが、VOCの使用量削減につながるので、会社として今後さらに水系塗料の比率を高めるよう、努力する。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称

東洋合成工業株式会社
市川工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

*基準年度に対して30%削減するという目標については、余裕をもって達成することができた。
22年度は生産量が増えた為、排出等の量が19,000kgと計画値を達成することが出来なかった。
しかし、23年度は22年度と生産量はほぼ同じだったが、ペーパーリターン配管付屋外タンの使用頻度が増えた為、排出量を抑制することができた。
*ペーパーリターン配管付屋外タンの使用率 25年度：71% 26年度：88% 27年度：78%
*使用量は計画年度とほぼ同等の量を取り扱ったが、取り扱い品目数で1.1倍、さらに揮発性の高いメタノール、アセトンに関しては1.5倍近く増えているので充填作業の増加及び排出量の増加が考えられる。
*対策：①屋外ドラム充填施設に局所排気装置の設置②PSA装置の脱臭液の変更を計画している。
*H26年度、引き続きPSA装置の脱臭液変更を計画、その他一部の屋外タンにキパーブリーザーを設置予定。
*H26年度PSA装置テスト実施、今季継続テスト中。キパーブリーザー設置中(約半数)。またH26年度は計画値の18,000kgを達成することができなかったのは、生産量が増加したためである。
*H27年度、PSA洗浄テスト実施し、効果を確認した。前年報告した計画値の算出に不備があり、修正。
*H28年度、夏場のタンク散水を実施しております。キパーブリーザーを3基設置した。
*H29年度、PSAの真空ポンプの更新、シリカゲル、活性炭の更新をした。
*H30年度、トルエンの販売を中止した。
H30年度、排出等の量が15,000kgに低減している理由は、MEK関連の生産量が24%減少したためである。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社淀川製鋼所 市川工場
------------	-------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	2 2	5 6							

その他 (19, 29, 39, 49, 59, 99) を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策 1
塗料、シンナーのフタ閉め、漏れ防止による溶剤管理の徹底
対策 2
製品品質安定化による塗料使用量の低減実施
対策 3
蓄熱式除去装置の安定運用

